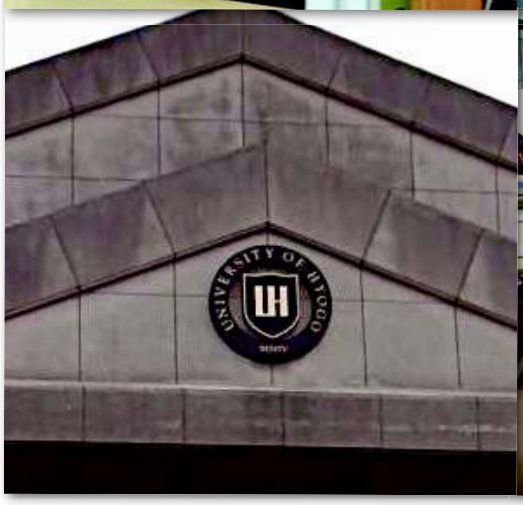
Osaka Gakugei S. S.

# RYS

Yes, we are explorers!

2012.12.17(Mon)



大阪学芸中等教育学校　学問探究団RYS

## episode14:「気になる学部に潜入！②　経済学部・経営学部」

## 兵庫県立大学　神戸学園都市キャンパス

平成２４年１２月１７日（月）進路指導部

今回のRYSは、「気になる学部に潜入」シリーズの第２弾として、経済学部と経営学部のある兵庫県立大学の神戸学園都市キャンパスを訪れました。

経済学部、経営学部といえば、非常に人気のある学部ですが、「経済学と経営学の違いは何？」と問われると、しっかりと答えることができない人が少なからずいるはずです。なんとなく入学してしまえば、後悔することがあるかもしれません。そこで今回のRYSでは、それぞれの学部の学びの特色を知ることが一番の目的でした。

今回訪れた兵庫県立大は、大学再編により、2004年に神戸商科大、姫路工業大、兵庫県立看護大が統合してできた大学です。それぞれが伝統と実績のある大学でしたが、中でも、経済学部と経営学部の前身である神戸商科大は、更にその前身である県立神戸高等商業学校の卒業生であるダイエー創業者・中内功をはじめとし、優秀な人材を経済界に輩出してきた大学です。経済学と経営学の中身を知る上で、最適の大学といえるでしょう。

# 経営学部 (School of Business Administration)　森谷義哉　准教授

まずは経営学部の森谷先生からの講義です。経営学は「組織マネジメント」に関する学問で、マネジメント（管理）する対象は、「ヒト・モノ・カネ・情報」の４つがあります。例えば、「モノ」については、売れ残りを出さないためにはどうすれば良いかやどのような新製品を開発するかなど、また「情報」については、情報システムの設計や得られた情報をどう活用するか、などが学問の対象となっています。

例えば、最近コンビニでポイントカードを求められることが多いですが、店はカードから得られる顧客情報から年代や性別による好みのデータを入手し、新製品の開発や各店舗への物品の搬入数を決定しています。こういった、ビジネスにおける様々な戦略を考える上で必要になるのが経営学です。

ただ、単なる「金儲け」のための学問ではなく、例えば従業員のやる気を引き起こすための策を講じるなどの「ヒト」の管理も学問の対象になっているところがポイントだと感じました。

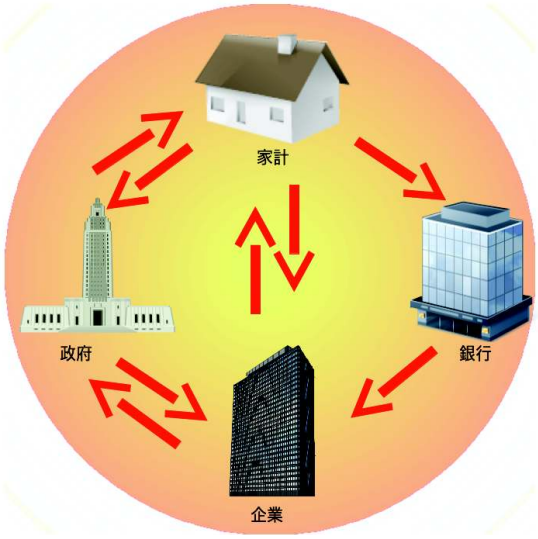
# 経済学部 (School of Economics)　植野和文　教授

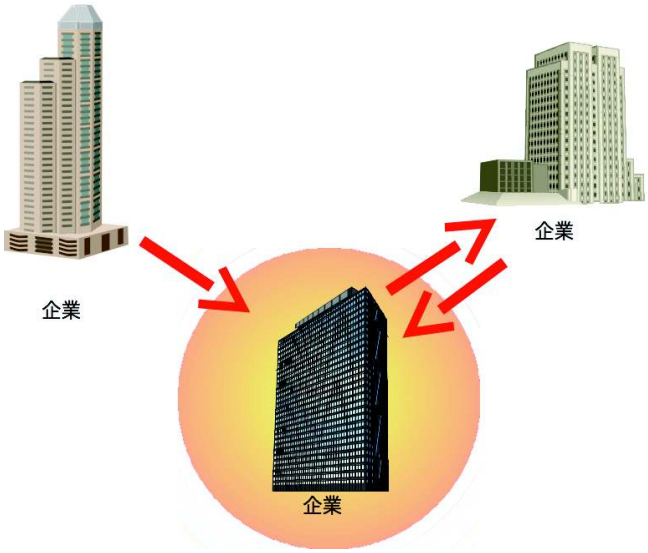
続いては、植野先生から経済学部に関する説明です。

「今は5千円しか持っていないが、1万円欲しい、このように『欲しいもの』が『現在入手できるもの』よりも多いという状態をいかに解決するか、これが経済学の原点です」つまり、豊かな社会を実現するため、限られた資源を有効活用する方法を考え、その過程で生じる競争や格差を軽減するための効率的な資源配分の手法を模索し、更に、それらを実現するためにはどのような財政政策が有効なのかを考える、これらが経済学であるということでした。

国家間の貿易問題から、大阪府など地方自治体の経済・環境・福祉などの様々な問題、そしてそれらを解決するための政策の研究など、非常に幅広い内容を扱う学部であることがわかりました。考えてみると、RYSの前日に投開票が行われた衆議院選挙の争点であった、TPP問題やエネルギー問題、消費税の問題はすべて経済学に関わることですよね。また、社会の動きを分析するのに統計学の手法を使うため、高度な数学の知識も必要なのだそうです。

# 経済学と経営学の違いは？




**経済学は社会全体**

**経営学は個々の企業**

二人の先生のお話を聞くことで、経済学と経営学の違いがわかってきました。

経済学は、例えば「どのような政策をとれば景気が良くなるか」とか「貧富の格差をなくすにはどうすればよいのか」など、社会全体を対象とした学問であるのに対して、経営学は、「どのようにすれば会社の売上を伸ばすことができるのか」とか、「どのような新製品を開発すればよいか」など、個々の企業を対象にした学問だということです。もう少し具体的にいうと、「自動車」を経済学と経営学の視点から見た場合、経済学の視点では、「自動車産業は今後どのような発展を遂げるか」とか「電気自動車がもたらす環境や社会への影響は」などといった捉え方になり、経営学の視点では、「トヨタ自動車が次に開発するべき新車とは」とか、「開発した新車を、どのような戦略で売っていくのか」といった捉え方になります。

経済学が対象が広く抽象的な学問であるのに対して、経営学は限られた対象の中での具体的な学問であると言えると思います。しかしながら、この２つは全く別の学問ではありません。経営学的な戦略を立てる上で、社会全体の動きを予測することは必要不可欠であり、そういう意味で、経営学のベースとなっているのは経済学であると言えます。

また、どちらの学問を学ぶ上でも、数学の知識は相当必要であり、更に、論理的につながりのある表現を使い、わかりやすい説明ができる国語力も重要であるということでした。

# ミニ講義「国境を越えた争いを解決する方法」岩瀬真央美　准教授

最後に、経済学部の岩瀬先生から、「国境を越えた争いを解決する方法」というタイトルの模擬講義をしていただきました。岩瀬先生は、経済学部の先生でありながら、法律を専門としており、「国際経済法、国際的な投資活動を巡る紛争とその解決・処理」などを研究されているとのことです。

法律の内容がほとんどだったので、戸惑う団員も多かったですが、経済的なやりとりをする中で、法律の知識が必要なのは当たり前のことであり、それを再認識することができたのではないでしょうか。

# 学食で昼食・キャンパス見学

講義が終了後、大学の食堂で昼食をとりました。大学の食堂は、カフェテリア形式となっているため、自分の好みや体調に合わせ、好きなメニューを選ぶことができるのが特徴です。値段もずいぶん安くてみんな驚いていましたね。

その後は、大学の職員の方にキャンパス案内していただきました。大学の図書館は、広くて本もたくさんあり、みんな嬉しそうに館内を見学していました。また、大講堂にも入らせていただき、将来の大学での学びに思いを巡らせたことでしょう。

## 団員の感想

・はじめて大学のキャンパスに来て、楽しかったです。大学がどういうところかわかりました。（3年女子）・ミニ講義の内容が難しかったです。経営学部の説明が、イメージしやすいものだったので、面白かったです。（4年女子）・経済学部と経営学部の違いがわかって、自分のやってみたい「マーケティング」が経営の方だということがわかりました。（5年男子）・学校から遠かったですが、良い経験になりました。自分はどちらかというと、経済より経営に興味があることもわかったので、これから先に活かしたいです。（5年男子）・とてもきれいな校舎で良かったと思います。自分のためになりました。また、RYSに参加してみたいです。（5年男子）